

ルイス・デ・アルメイダ
生誕 500 年記念

戦国時代の大分に

私財を投げうち人々を救った人物がいた

商人であり、外科医であり、宣教師であった

その名は...

生誕 500 年記念フォーラム

ルイス・デ・アルメイダ

「西洋医術発祥の地おおいた」の魅力再発見



2025年 11月23日 日

会場/J:COMホルトホール大分

資料集

主催 大分市・大分市教育委員会

共催 東京大学史料編纂所・
科学研究費基盤研究B

16世紀西日本港町の構造と相関

—文献・考古学資料の国際・横断的分析による—



JAPAN
CULTURAL
EXPO 2.0



令和7年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

大分市・大分市教育委員会

目 次

ルイス・デ・アルメイダ生誕500年記念フォーラム プログラム	01
--------------------------------	----

ごあいさつ	02
主催者挨拶/来賓挨拶	

ルイス・デ・アルメイダ履歴書	06
----------------	----

オープニングセレモニー	08
オープニングムービー「ルイス・デ・アルメイダの生涯」/ ヴィオラ演奏	

第1部 基調講演	12
「ルイス・デ・アルメイダの旅とその生涯」	

第2部 スペシャルコンサート	18
—南蛮ぎたるらの世界—	

第3部 トークセッション	20
テーマ「アルメイダの功績と人物像から考える大分の魅力再発見」	

第4部 アルメイダ関係資料—豊後府内(大分)編—	23
イエズス会日本書翰集関連資料(抜粋)/アルメイダ年表/ アルメイダ関係航路図/アルメイダ行程概念図	

FUNAI ジュニアガイド活動紹介	47
-------------------	----

「西洋医術発祥の地おおいた」の魅力再発見

ルイス・デ・アルメイダ生誕500年記念フォーラム

Rediscovering the Charm of "Oita – The Birthplace of Western Surgery"
Luís de Almeida 500th Birth Anniversary Forum

2025年**11月23日**  会場/J:COMホルトホール大分

プログラム

13:00 オープニングセレモニー ヴィオラ演奏 長石 篤志 氏

13:15 開会行事

主催者挨拶 足立 信也 (大分市長)

来賓挨拶 武富 紹信 氏 (一般社団法人日本外科学会 理事長 /

北海道大学大学院消化器外科学教室 I 教授)

ジルベルト・ジェロニム 閣下 (駐日ポルトガル共和国大使)

桑田 龍太郎 氏 (大分県副知事)

13:40 第1部 基調講演

「ルイス・デ・アルメイダの旅とその生涯」

講師 岡 美穂子 氏 (東京大学史料編纂所 准教授)

14:30 休憩

14:40 第2部 スペシャルコンサートー南蛮ぎたるらの世界ー

MUZIC@NET/ マリオネット

南蛮BVNGOマンドリンオーケストラ

15:15 第3部 トークセッション



テーマ アルメイダの功績と人物像から考える大分の魅力再発見

コーディネーター/本城 舞 氏 坪根 伸也

パネリスト/北野 正剛 氏 麻原 きよみ 氏 平田 豊弘 氏 岡 美穂子 氏 足立 信也

16:50 閉会行事

フォーラム所感 木下 昭生 氏 (一般社団法人大分市連合医師会 会長)

閉会挨拶 栗井 明彦 (大分市教育委員会 教育長)



府内病院復元模型 (大分市医師会立アルメイダ病院)



主催者挨拶

Message from the Organizer

大分市長

Mayor of Oita City

足立 信也

Adachi Shinya

「ルイス・デ・アルメイダ生誕500年記念フォーラム」の開催にあたり、大分市を代表し、市民の皆さまと共にこの歴史的な節目を迎えられることを大変うれしく思います。

2025年は、ポルトガル人医師ルイス・デ・アルメイダの生誕500年にあたる年です。

アルメイダは、中世の豊後府内（現在の大分市）において、1557年に日本初の西洋式病院を開設したことで広く知られています。この病院は、西洋医学の先駆けとして、当時の日本社会に大きな影響を与えました。

アルメイダは1525年、ポルトガル・リスボンで生まれ、1546年に外科医としての資格を取得した後、アジアへ渡り、マカオを拠点に貿易を行う中で巨万の富を築きました。1555年来日し、大友宗麟の庇護のもと豊後府内で医療活動を開始しました。当時の日本では、飢饉や貧困が深刻な問題となり、「嬰兒殺し（間引き）」や生活苦から命を落とす人々が後を絶ちませんでした。この状況に心を痛めたアルメイダは、日本初の育児院を設立し、さらに1557年には自身の私財を投じて、西洋式病院を開設しました。

この病院では、無償診療を行い、庶民に平等に医療を提供しました。また日本で初めてとなる外科手術や、漢方医のキョウゼン・パウロによる薬の調合、そしてハンセン病患者専用の病室も設け、医療の普及にも努めました。

さらに、看護や介護を支えた「ミゼリコルディア（慈悲の組）」の活動は、日本における看護やボランティア活動の先駆けとされ、後の医療制度にも大きな影響を与えました。アルメイダは、日本人医師の育成にも力を注ぎ、医療の発展に貢献しました。

本市では、アルメイダの功績を顕彰し、彼の精神を現代に継承するために、「ルイス・デ・アルメイダ生誕500年記念事業」を行うことといたしました。「記念フォーラム」では、アルメイダの功績を最新の研究成果に基づき医学史や国際交流、福祉の観点から再評価します。また、大航海時代を感じさせる音楽コンサートや、大分市の小中高校生による「FUNAIジュニアガイド」のガイド実演も予定しており、歴史を「知る」だけでなく「感じる」ことができる貴重な機会です。

さらに、大分市歴史資料館では、特別展「生誕500年記念 ルイス・デ・アルメイダ」が12月7日まで開催されており、当時の資料や遺品を通じて彼の人物像に触れ、アルメイダが残した西洋医学が日本にもたらした影響を紹介し、大分の地が日本の医療や教育に大きく寄与したことを感じて頂ける内容となっています。

コロナ禍での経験や世界での紛争の報道に触れ、また学問としての医学とは何かを問うた時、私は500年前すべての人々を平等に救おうとしたアルメイダに普遍的な価値を感じます。現代の日本の医療は原因究明を重視したドイツ学派、臨床経過に重きを置いたイギリス学派、両者の融合であるアメリカ学派、それぞれの流れを受けています。大学人としてまた臨床外科医として全霊を打ち込んできた私としては、将来の科学の発展を目指しながら、今そこにいる「人が真ん中。」の姿勢を若い世代に引き継いでもらいたいと思っています。

「ルイス・デ・アルメイダ生誕500年記念事業」が、医療関係者の皆さまにとっては、医療人としての誇りを新たにすきっかけとなり、また、市民の皆さまには、「おおいたの歴史」を誇りに感じる機会となることを心から願っています。

Message from Mayor Adachi

I am delighted to celebrate this historic milestone with our citizens at the Luis de Almeida 500th Birth Anniversary Forum.

Luis de Almeida is renowned for establishing Japan's first Western-style hospital in 1557 in Funai (present-day Oita City), leaving a profound and lasting influence on Japanese society. Born in Lisbon, Portugal, in 1525, he was a trained surgeon who accumulated great wealth through trading in Macau. In 1555, he came to Japan and began his medical activities under the protection of the feudal lord Otomo Sorin.

Motivated by compassion for those suffering from famine and poverty, Almeida founded Japan's first orphanage and Western-style hospital, which he funded entirely from his own private resources. This hospital provided free medical care, performed Japan's first surgical operations, operated a pharmacy, and treated patients with Hansen's disease. Furthermore, the mutual aid organization Misericordia became the foundation for nursing care and volunteer activities that greatly influenced the development of Japan's healthcare system. Almeida also contributed to the advancement of medicine in Japan by dedicating himself to the training of doctors.

To honor Almeida's spirit, Oita City launched the Luis de Almeida 500th Birth Anniversary Project, which re-examines his achievements from the perspectives of medical history, international exchange, and social welfare. Through this project, we also hope that our citizens will not only learn about history but also experience it through concerts that evoke the Age of Exploration and guided tours conducted by the FUNAI Junior Guide members.

Having endured the COVID-19 pandemic and witnessed conflicts around the world, I find universal value in Almeida's belief in saving lives equally. As a clinical surgeon, I hope that the younger generation will embrace the philosophy of human-centered design. Furthermore, I hope this project will inspire healthcare professionals to renew their pride and foster a deeper sense of pride and appreciation in Oita's history among our citizens.

*Messages presented in this booklet are abridged for brevity.

来賓挨拶

Guest Remarks



一般社団法人日本外科学会 理事長/
北海道大学大学院消化器外科科学教室 教授

President, Japan Surgical Society / Professor,
Department of Gastroenterological Surgery 1,
Hokkaido University Graduate School

武富 紹信 氏
Taketomi Akinobu

ルイス・デ・アルメイダ先生の生誕500年を記念するフォーラムの開催に際し、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。アルメイダ先生は1525年にポルトガルで生誕され、1557年に日本初の洋式病院を大分市に設立し外科診療を担当するとともに、外科を主とした洋式医学教育をおこなった西洋医学の先駆者として知られています。前野良沢先生・杉田玄白先生による解体新書の翻訳発刊が1774年、華岡青洲先生による通仙散を用いた世界初の全身麻酔下乳癌手術が1804年、長崎の医学伝習所の開設が1857年、日本外科学会の設立が1899年であることを考えると、本邦における西洋医学のすべてはアルメイダ先生のご功績を源流としていと言っても過言ではありません。

500年前、母国ポルトガルから遠く離れた異国の地に住みつき、言葉も通じない風土も文化も異なる大分で、なぜ病院をはじめることになったのか？当時の若きアルメイダ医師の熱い想いに思いをはせ、人間として生きることの大切さ、尊さを考える時間にしていただければと思います。



駐日ポルトガル共和国大使
Ambassador of Portugal in Japan

ジルベルト・ジェロニム 閣下
Gilberto Jerónimo

500年の時を超えて — アルメイダと大分の絆

「ルイス・デ・アルメイダ生誕500周年記念フォーラム」の開催を、心からお祝い申し上げます。大分とポルトガルの交流は、今からおよそ500年前、16世紀の大友宗麟の時代に始まりました。府内の港にはポルトガル船が幾度も訪れ、南蛮貿易を通じて異国の文化や技術がこの地にもたらされました。府内の町では西洋の香り漂う文化が芽吹き、当時の人々は未知の世界に胸をときめかせたことでしょう。

その中でも、ポルトガル人のルイス・デ・アルメイダは特別な存在となりました。宣教師であり、医師でもあったアルメイダは、豊後府内に日本で初めての病院を設け、西洋医学を広めながら、貧しい人々の治療に尽くしました。その献身と慈愛の精神は、今も大分の人々の心に生き続けております。

1978年には、大分市とポルトガルのアベイロ市が姉妹都市の絆を結び、文化・芸術など幅広い交流を続けております。500年前に始まったこの出会いは、今もなお新しい形で息づき、未来へと優しく橋を架けております。



大分県副知事
Vice Governor of Oita Prefecture

桑田 龍太郎 氏
Kuwata Ryutaro

「西洋医術発祥の地おおいたの魅力再発見 ルイス・デ・アルメイダ生誕500年記念フォーラム」の開催を心からお喜び申し上げます。

ルイス・デ・アルメイダが本県に来訪し、大友宗麟と出会い、日本における西洋医術やボランティア活動の発祥につながったことは大変意義深く、本県の誇りであります。

アルメイダの母国ポルトガルと本県との交流は、大友宗麟の時代に始まり、その結びつきは今も日々深まっています。姉妹都市交流では、50年近く続く大分市とアベイロ市に加え、今年、日出町とモンテモール・オ・ベリヨ市が新たに交流を開始しました。

スポーツにおける交流も進んでおり、ポルトガル陸上代表の皆さんが近年本県での合宿を重ね、3度目の代表合宿となったこの夏、東京2025世界陸上において、男子1500mのイザック・ナデル選手が金メダルを獲得されましたことは大変喜ばしい限りです。

アルメイダの本県への来訪は、こうした交流のさきがけとなったものであり、グローバル化の進む現代において、その意義は一層大きなものとなっております。

今回のフォーラムを通じて、アルメイダの功績に改めて光を当てることで、本県の魅力の再発見と国際交流の進展につながることを祈念し、あいさつとします。

Message from Dr. Taketomi

I would like to extend my heartfelt congratulations on the occasion of the “Luis de Almeida 500th Birth Anniversary Forum.”

Dr. Almeida, born in Portugal, is remembered as a pioneer who established the first Western-style hospital in Japan in Oita City in 1557. There, he performed surgical treatments and provided Western medical education. When we consider that Dr. Maeno Ryotaku and Dr. Sugita Genpaku published the *Kaitai Shinsho* medical text in 1774, and that Dr. Hanaoka Seishu performed the first breast cancer surgery under general anesthesia in Japan in 1804, it becomes clear that Dr. Almeida’s accomplishments can truly be regarded as the origin of Western medicine in Japan.

I hope this forum will offer an opportunity to reflect upon Dr. Almeida’s intentions—specifically, why he founded a hospital in Oita far from Portugal five centuries ago—and to contemplate the value and preciousness of life.

Message from His Excellency Ambassador Jerónimo

The Bond Between Almeida and Oita - Spanning Over 500 Years

I would like to extend my heartfelt congratulations on the occasion of the “Luis de Almeida 500th Birth Anniversary Forum.” The exchange between Oita and Portugal began approximately five hundred years ago, during the era of feudal lord Otomo Sorin in the 16th century. Portuguese ships frequently visited the ports of Funai, bringing foreign cultures and technologies to the region through the Namban trade. In the towns of Funai, a culture infused with Western influences took root, and the people of that time must have been captivated by the possibilities of this unknown world.

Among these visitors, the Portuguese missionary and physician Luis de Almeida holds a special place in history. He established the first hospital in Japan in Funai, promoting Western medicine and devoting himself to treating the poor. His spirit of dedication and compassion continues to resonate in the hearts of the people of Oita to this day.

In 1978, Oita City in Japan and Aveiro City in Portugal formed a sister-city relationship, promoting ongoing cultural and artistic exchanges. This connection, which began five centuries ago, continues to flourish in new ways, gradually building bridges toward the future.

Message from Vice Governor Kuwata

I would like to extend my heartfelt congratulations on the opening of the “Luis de Almeida 500th Birth Anniversary Forum.” Almeida’s encounter with the feudal lord Otomo Sorin, which led to the introduction of Western medicine and the origins of volunteerism in Japan, is deeply significant and a source of great pride for Oita Prefecture.

Exchanges between Portugal and our prefecture began in the 16th century. Today, in addition to the sister-city relationship between Oita City and Aveiro City, this year marks the beginning of new exchanges between Hinode Town and the City of Montemor-o-Novo. In sports, Portuguese national track and field athletes held training camps in our prefecture before going on to win gold medals at the World Athletics Championships Tokyo 2020. Dr. Almeida’s visit to our prefecture can be seen as the forerunner of these exchanges, and its significance remains profound.

I hope that this forum will serve as an opportunity to rediscover the appeal of Oita and to further promote international exchange.

*Messages presented in this booklet are abridged for brevity.

Luís de Almeida

ルイス・デ・アルメイダの履歴書

履歴書

令和7年(2025)11月23日

フリガナ	ルイス・デ・アルメイダ		
氏 名	Luís de Almeida		
生年・年齢	大永5年(1525年)	500 歳	性別 Ⓐ・女
出生地	ポルトガル王国の首都・リスボン		
現住所	日本 豊後国府内・肥後国天草、ほか		連絡先 天国



年	経 歴
1525年	ポルトガルの首都・リスボンに生まれる。
1546年	ポルトガル王より外科医師免許を授与される。
1550年頃	貿易商人として、日本を含む東アジアで貿易を行う。
1552年	山口でコスメ・デ・トルレスに出会う。
1555年	豊後府内を訪れる。私財を投じて府内に育児院を設立する。
1556年	イエズス会に入会し、全財産を寄付する。
1557年	府内に日本初となる西洋式病院を設立する。
1560年	聖職者の医療行為禁止のため、キリスト教の布教活動に専念する。
1569年	天草の崎津に教会を設立する。
1578年	大友宗麟の日向遠征に同行する。
1580年	マカオで司祭に叙階される。
1583年	天草の河内浦において死去。

免許・資格	ポルトガル王国 外科医師免許 イエズス会宣教師(修道士、司祭)		
配偶者	有・ ☒ 無	子ども	有・ ☒ 無
特 技	外科手術、薬剤調合、医療教育、看護指導、日本語会話		
ニックネーム	生ける車輪、不断の移動者		
尊敬する人物	フランシスコ・ザビエル コスメ・デ・トルレス		
友人・交友関係	ドゥアルテ・ダ・ガマ ルイス・フロイス 大友 義鎮(宗麟) 日比屋了珪		
長 所	博愛精神に富み、異文化への理解が深い 医療と信仰の両面で行動力がある 困難な環境でも使命感を失わない		
短 所	休息を取らずに 働きすぎる傾向がある		
自己PR	私は外科医として多くの人々を癒やし、 魂の救いをもたらすことを使命として生きてきました。 ポルトガルより日本に渡り、 異なる文化・言葉・宗教の中で日本の人々と心を通わせながら、 育児院や西洋式病院の設立による医療活動を通じて信頼を築きました。 人々の苦しみを減らすことこそが私の喜びです。 これからも、常に「慈愛と奉仕」を胸に生きていきたいと考えています。		